**機密等級: 社外秘[Confidential]

文書番号: SBHI-3023-MP-005

改訂版: 1.1

作成日: 3023年7月5日

作成者: サムエル・G・福島, 技術部門（CTO）

次世代火星用戦闘用ロボット開発事業提案書

# **提案事業**

島辺重工は新たに数千億円規模の投資を行い、次世代火星用戦闘ロボットの開発、プロジェクト名：レッドフォージを開始します。本プロジェクトでは、未来の火星圏での安全保障と経済活動の両立を目指します。火星での民間軍事会社との強力な提携により、地球サイド側の勢力図を書き換える機会を手に入れました。我々の見込む市場規模は数十兆円となります。

# **新規技術開発**

火星の厳しい環境に耐え、優れた戦闘能力を発揮できるロボットの開発は、未踏の領域であります。本プロジェクトの指揮は、新技術開発部のエマ・B・吉田が担当し、ロボット設計部のヴィンセント・N・坂本が設計を牽引します。彼らの下、次世代火星用戦闘ロボットの開発が行われます。

計画中の次世代火星用戦闘ロボットは「オリオンMK-0」（仮称）と命名しました。オリオンMK-0は、最新鋭のヒト型ロボットであり、火星の過酷な環境に適応するための特殊な設計と装備を持ちます。全高は12メートル、全重量は30トンを見込み、最新鋭のアーマーと先端武装を備えています。開発費用は約3000億円、開発期間は5年間を予定しています。

オリオンMK-0には、新型OS「エリミナルSMB」が搭載されます。これにより、戦闘用ロボットの駆動系とパイロットの脳神経を完全に同期し、性能を格段に向上させます。エリミナルSMBは、地球月連邦-生命保健維持省によるLL04の認可を受けており、人体への高い安全性が実証されています。

# **火星ビジネス展望**

火星の紛争ビジネスは、未来の経済の新たな拠点となる可能性を秘めています。本プロジェクトの成功は、我々島辺重工にとって、火星での圧倒的なビジネスチャンスを手にすることとなります。

火星の安全保障と経済活動の両立を目指すため、火星に既に存在する民間軍事会社との強力な提携が必要です。具体的には、「マーズ・ディフェンス・ロジスティクス」との提携を初めに探ります。彼らとの提携により、火星での経済活動の新たな拠点を確立し、戦闘ロボット市場の開拓を進めます。

添付:サムエル・G・福島CTO, 島辺重工

[samuel\_g\_fukushima@shimabay-industries.co.jp](mailto:samuel_g_fukushima@shimabay-industries.co.jp)

承認: 島辺・K・ライオネルCEO, 島辺重工

[shima\_k\_lionel@shimabay-industries.co.jp](mailto:shima_k_lionel@shimabay-industries.co.jp)

本文書は、島辺重工社員以外の閲覧を禁ずる。

[注意]以上は創作用の資料です。このため登場する企業、及び、人物は実在しません。

[Note] This paper is for creative use only. For this reason, the companies and people that appear do not exist.